

## ミレニアム生態系評価の概要 (Millennium Ecosystem Assessment; MA)

- ・「生態系に関する大規模な総合的評価」としては世界で初めての取組み
- ・2001年6月、アナン国連事務総長が正式な作業開始を発表
- ・95カ国から1,360人の専門家が参加（2001年から2005年まで実施）
- ・生態系の変化が人間の生活の豊かさ（human well-being）にどのような影響を及ぼすのかを示し、生態系に関連する国際条約、各国政府、NGO、一般市民等に対し、政策・意志決定に役立つ総合的な情報を提供するとともに、生態系サービスの価値の考慮、保護区設定の強化、横断的取組や普及広報の充実、損なわれた生態系の回復などを提言

### 人為による生態系の変化

- ・過去40年間で、河川や湖沼からの取水量が倍増
- ・1945年以降に、18世紀と19世紀を合わせたよりもより多くの土地が耕作地に転換され、地表面の約1/4が耕作地化
- ・1980年頃以降、35%のマングローブが失われ、世界のサンゴ礁の20%が破壊され、さらに20%が極めて質が悪化、もしくは破壊
- ・人間活動により、すべての自然のプロセスを加えたよりも多量の生物学的に利用可能な窒素を生産
- ・窒素の海への流入量は1860年の2倍
- ・海産魚類資源の少なくとも1/4は漁獲過多

### 生物多様性の喪失

- ①人類により引き起こされた絶滅速度は、自然状態の約100～1,000倍。
- ②次の世紀までに、鳥類の12%、ほ乳類の25%、両生類の少なくとも32%が絶滅。

### 生態系サービスの変化を評価

- ①生態系サービス「提供」「調節」「文化」「基盤」の24項目のこれまでの状況を評価。
- ②24項目のうち、4項目のみ（穀物、家畜、水産養殖、気候調節）向上。15項目（漁獲、木質燃料、遺伝資源、淡水、災害制御など）が低下。

### 4つのシナリオの提示

- ①経済成長、人口変化、生態系管理、国家間協調の要素ごとに異なるケースを組み合わせた4つのシナリオ
- ②それぞれのシナリオについて、人間生活の豊かさの増減と生物多様性の喪失の程度を予測
- ③順応的な生態系管理の重要性を示唆

### <主な提言>

- ①意志決定を行う場合に、市場価格として評価されない生態系サービスの価値も考慮すべきこと、生態系サービスを保護するような土地管理を行っている土地所有者に報奨金を支払うこと。
- ②関係部局間あるいは国際機関等の意志決定を統合することにより生態系の保護を政策の焦点とすること、新たな海域での保護区域を設定すること、既存の保護区域を支援すること。
- ③教育、及び持続的な方法により生産された製品に関する証明システムを構築し、個人の行動に影響を及ぼすこと。
- ④生態系への悪影響の少ない技術への投資などにより、環境に優しい技術を開発し利用すること。